

## とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名 江の島保育園  
活動日 2025年12月1日 12月8日  
12月15日 12月22日  
クラス名（年齢） かりん組（2歳児）  
年間テーマ 感覚

### 活動のテーマ「 感触③ 」

#### 〈テーマの設定理由〉

自由遊びの中で日常的に水や砂あそび、片栗粉や小麦粉を使用した粘土を行っており、子どもたちは興味を示して取り組んでいる。季節を感じながら感触を確かめ、違いに気づき、さらに興味関心を深めていけるよう設定した。

#### 1. 活動スケジュール

12/1、12/8、12/15、12/22 に活動を実施する。

- ・ 戸外遊びの時間に行う。
- ・ 砂場に道具を準備し、自由遊びの中で子どもが砂の感触を感じられるようにする
- ・ 保育士も子どもが探求できるよう声を掛ける。
- ・ 砂の感触に触れて遊び、探求している姿を写真におさめる。
- ・ クラス会議の中で子どもの遊びの様子や反応、気づきを大人同士で共有する。
- ・ 活動内容の成果と評価を写真と共に残す。

#### 2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

##### 【素材、道具】

砂、シャベル、スコップ、おわんセット、皿、型、バケツ、ザル、  
ジョーロ、水

##### 【環境】

事前に砂場を開放し、砂場を耕しておく。

砂場の周りにかごを置き、中に道具を入れ設定する。

子どもが自分で選び取れるようにする。一人ひとりの場所や道具を保障し、保育士が近くで見守る。

型抜きや、見立て遊び用に作業台（ベンチ）を用意する。

道具の使い方は事前にモデルを示す、ルールを知らせ危険のないよう配慮する。

### 3. 探求活動の実践

#### <活動の内容>

- 好きな道具を選び取り、砂場で行う。
- 手や足など全身を使って、触る、握る、踏む、丸める、押す、落とす。
- 指先で、触り心地、温度、固さなどを知る。
- 道具を使用し、すくう、掘る、集める、運ぶ、型抜きする、好きな形を作る
- 水と砂を混ぜ合わせ、泥と砂それぞれの感触の違いに触れる。
- 自由に作り、できたものを見立てる。

#### <活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 砂を手で触った子どもたちに、「どんな感じがする？」と聞くと「サラサラしてる」「なんかやわらかい」「固まってよ」「こっちはカチカチ」「つめたい」と話す。かたい箇所を足で踏んでみる、手で叩いてつぶす、シャベルで叩くなど方法を変えていた。
- スコップに足をかけ、体重を掛けて掘ろうとする。「あいた！」と穴ができたことに気付く。
- シャベルで型に砂を入れ、ひっくり返すが型にならない子どもがいる。「できない」と保育士を呼び、「ギューってしてみたら？」とヒントを伝えると、型に砂を入れて手で押し入れる。ひっくり返すと型ができ保育士に目線を送るので「できたね」と共感する。型を変えてもう1回作る。
- 保育士も一緒にスコップやシャベル、手を使って砂を集め、山を作る。  
そっと手を当て。自分の手形ができ「て！」と喜ぶ。  
できた山の上を踏む、歩いてみると転ぶ。2回目は転ばないようにそっと歩く。「ヤマはどう？」と聞くと「フワフワしてる」「やまたかいねー」と言う。「フジサンだよ」と知っている山に見立てる子どももいた。
- カップに水を入れて渡すと「いい？」と保育士に確認し、水を砂場に流す。「きえた」「ないねー」と手を使って探すと、さっきより砂が手にたくさん付いて「みてー」と見せる。保育士が泥に変わった砂を握り形にすると、「おにぎり」と表現する。
- 保育士がカップの型抜きで形を作り並べると、「プリン」「ゼリー」「ケーキだよ」と反応がある。子どもたちが近くにある、枝や葉、砂場以外の白い砂を探して持ってきて乗せたり挿して見立てる姿がある。そこから「いらっしやいませー」とお店屋さんになった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

- 砂遊びは日常的に行っている遊びで、子どもたちも興味を持っている。  
言葉で「どう?」「どんな感じ?」と問うと、1・2歳児なりに子どもたちの言葉で思考し様々な表現で伝えてくれた。
- 道具が上手く扱えず、保育士に助けを求めたり、諦めようとする姿があった。手本を見せたり方法を知らせ、繰り返していくうちに、砂の性質や道具の扱い方を知り、手先を使ってコツをつかんで、自分の作りたいものを実現させることができていった。
- 手や足で感触を楽しむ事は十分にできた。全身を使って、重さや量、音についても感覚していた。
- 砂遊びを十分に感覚できる、時間・場所・道具・場所を保障できた。
- 12月だったため、水と砂を混ぜると、より冷たさと季節を感じた。子どもたちも水に触れるのは警戒していたが、泥になると、積極的に触っていた。
- ひとりひとりが集中し無心で行う姿が多い。できた時、作り上げた時に、必ず、顔を上げ保育士を見る。できた事に共感し肯定感や満足感を子どもが感じられるように意識することの大切さを感じた。